

日本生物学的精神医学会 2016 年度第 2 回理事会議事録

(理事長)

日本生物学的精神医学会 2016 年度第 2 回理事会議事録

1. 日 時 2016 年 9 月 7 日 (水) 19:00 ~ 21:30
2. 場 所 福岡国際会議場 4F 404
3. 理 事 西川 徹 (出), 朝田 隆 (出),
加藤忠史 (出), 久住一郎 (出),
篠崎和弘 (出), 曾良一郎 (出),
中込和幸 (出), 平安良雄 (欠),
吉川武男 (出), 渡辺義文 (出),
尾崎紀夫 (出), 笠井清登 (出),
上野修一 (出), 佐野 輝 (出),
白川 治 (欠), 福田正人 (出)
以上理事 16 名中 14 名出席
4. 監 事 寺尾 岳 (欠), 米田 博 (欠)

【審議事項】

- 1 前回議事録等確認 (西川)
西川理事長より, 前回理事会議事録案が示され, 原案どおり承認された。
- 2 会計報告 (吉川)
 - 2.1 2015 年度決算の件
吉川理事より 2015 年度の財務諸表案が示され, 理事会は原案どおりこれを承認し, 次回評議員会・総会に上程することが確認された。
 - 2.2 2016 年度予算の件
吉川理事より, 2016 年度収支予算書が示された。
事務局より, 寄付金収入 300 万円の内訳について, 前年度寄付金として 2015 年度年会の余剰金が 260 万円, 企業から本学会への寄付金 40 万円であること, 支出は概ね例年通りに計上したが, 寄付金収入により予算全体では若干の黒字が見込まれると説明がなされた。
- 3 名誉会員推戴の件 (西川)
西川理事長より, 次回評議員会において中村純先生, 鈴木二郎先生, 岡崎祐士先生, 加藤進昌先生, 林拓二先生の 5 名を名誉会員に推戴することが提案され, 全会一致で承認された。
- 4 脳科連評議員会報告 (西川)
西川理事長より, プレインビー日本大会 (脳科学オリンピック) の説明があり活動支援の為の一口 5 万円の寄付が提案され, 全会一致で承認された。
- 5 第 41 回本学会 (2019 年) の大会長と開催形式について (西川)

西川理事長より, 2019 年に開催される第 41 回大会の大会長として奈良県立医大の岸本年史評議員が就任したこと, 関連領域の他学会との合同大会開催で調整が進められていることが報告された。

開催形式について, 医師および若年会員を増やすために今後も日本神経化学会や日本神経精神薬理学会等の学会との合同開催が望ましいという意見が出た。

6 一般の方からの要望とその対応について (西川)

西川理事長より, 一般の方からの要望について報告があった。本案件は本学会の取り扱う事柄ではないが, 後日対応が問題となることを防ぐため弁護士と相談し, 弁護士の作成した書面により返答した。書面作成の際に弁護士相談料・通信料が発生し, 予算から費用 3 万円が出されることについて全会一致で承認された。

【報告事項】

7 理事長報告 (西川)

西川理事長より, 脳科学関連学会連合の事業内容などが報告された。

8 会員数および新入会員に関する件 (朝田)

朝田理事より, 会員数および新入会員に関する報告がなされた。会員総数は昨年より微減しており, なかでも正会員数の減少が目立つが, 若手・学生会員数は微増していることが説明された。

9 会費滞納者の会員資格に関する件 (朝田)

朝田理事より, 会費滞納者に関する報告がなされた。本会の会員資格の失効に関する規定に沿い, 事務局が 3 年以上の会費滞納者について調べ請求書とともに督促状を送付することと, 送付後入金が無かった対象者について理事会で会員資格失効について審議することが確認された。

10 最近の事務局業務について (事務局: 眞野)

事務局眞野氏より, 学会支援機構における事務局業務の状況について報告がなされた。従来本学会事務を担当していた眞野氏の他学会への出向, 後任担当者 2 名の退職等による事務機能の遅滞・不全について謝罪があった。学会支援機構は事務局業務担当の後任として斎藤氏を割り当て, 従来担当者の佐々木・眞野両名の指導のもと引継ぎに取り組む方針が説明された。

11 各委員会報告

11.1 総務委員会 (朝田)

朝田理事より, 特に報告すべき事項は無い旨報告がなされた。

11.2 広報委員会 (渡辺)

渡辺理事より、特に報告すべき事項は無い旨報告がなされた。

11.3 財務委員会 (吉川)

吉川理事より、特に報告すべき事項は無い旨報告がなされた。

また、2016年度収支予算書において寄付金収入を増額した件について、当項目は税務調査の対象になるかという質問があった。本件については、税務署が学術集会(大会)のランチョン・セミナーや企業展示を収益事業と認定した場合には調査対象になり得るが、収益と支出が同等或いは赤字と認められた場合や、学術の見地から企画実施をしたことが明確であれば収益事業と認定されにくい、という説明がなされた。

11.4 国際交流委員会 (理事長)

今年度の Asian Biological Psychiatry Symposium (以下, ABPS) は第 38 回大会期間中の 9 月 8 日 (木) に開催され, KSBP より Eunsoo Won 先生, Woojae Myung 先生 2 名が参加予定である。また若手研究者国際交流プログラムについて, KSBP に日本から陳冲先生, 森康治先生の派遣決定している旨の報告がなされた。また, ABPS について, 他国から日本へ招待する研究者の不足や発表題材のずれによるシンポジウムの集客率の伸び悩み等が報告され, 審議の結果, 国際交流委員会に具体的な企画見直しの提案が依頼された。

11.5 学術賞委員会 (久住)

久住理事より, 前述の事務局業務の遅滞により 2 年分の各賞発表になることが説明された。2014 年度後期国際学会発表奨励賞および 2014 年度 (第 23 回) 学術賞の受賞者, 2015 年度前期・後期国際学会発表奨励賞および 2015 年度 (第 24 回) 学術賞の受賞者の報告がなされ, 理事会は全会一致でこれを原案どおり承認した。

各賞の受賞者と受賞演題等は以下のとおり。

2014 年度各賞受賞者

■ 2014 年度後期国際学会発表奨励賞

・森田真規子 (京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンター)

Involvement of dopamine D2L receptor and its signaling in cognitive learning

Neuroscience 2014

・越智紳一郎 (愛媛大学大学院医学研究科精神神経科学分野)

The nicotinic cholinergic system is affected in rats with delayed carbon monoxide encephalopathy

Neuroscience 2014

■ 2014 年度 (第 23 回) 学術賞

・前川素子 (独立行政法人理化学研究所脳科学総合研究センター分子精神科学研究チーム)

Utility of Scalp Hair Follicles as a Novel Source of

Biomarker Genes for Psychiatric Illnesses

Biological Psychiatry

2015 年度各賞受賞者

■ 2015 年度前期国際学会発表奨励賞

・諸沢俊介 (名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野)

Distribution of neuropeptide Y in the frontal cortex of a model mouse of schizophrenia, DISC1 knockout mouse

5th European Conference on Schizophrenia Research

・丸井友泰 (名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野)

The neuropathological study of Myeline-Oligodendrocyte in postmortem schizophrenic brain

5th European Conference on Schizophrenia Research

■ 2015 年度後期国際学会発表奨励賞

・小堀晶子 (東京都医学総合研究所精神医学研究分野統合失調症プロジェクト)

Study for the effect of carbonyl stress makers on cognitive impairment of schizophrenia

Neuroscience 2015

・齊藤菜穂 (京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座精神医学)

Discrepancy between explicit and implicit sense of agency : assessment of awareness of action in healthy population and in Parkinson's disease

Neuroscience 2015, Society for Neuroscience

■ 2015 年度 (第 24 回) 学術賞

・青木悠太 (東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻精神医学)

Oxytocin's neurochemical effects in the medial prefrontal cortex underlie recovery of task-specific brain activity in autism : a randomized controlled trial

Molecular Psychiatry

また久住理事より, 選考の過程において, 入会して間もない会員への各賞授与について選考項目に記載がなく選考委員内で意見が分かれたことと, 研究題材・発表のオリジナリティという選考項目についても意見が分かれたという報告がなされた。将来計画委員会の若手研究者育成プログラムのような受賞者への継続的な学会・総会への参画を見込んだ, 次年度年会での講演する権利を付与する案が示され, 審議の結果若手研究者の入会がより増加し研究の後押しとなる企画を検討することとなった。

11.6 倫理委員会 (申込)

申込理事より, 利益相反の取り扱いに関する指針・細則・申告書の案が示され, やや厳格だった原案からより簡略化していったこれまでの改訂の経緯と現行案の改訂箇所の説明があった。また現行案の承認後の検討事項として, 法律の専門家による相談料の捻出に対する承認が必要なことと, 現行案の制度運用のための利益相反委員

会を新しく創設する必要があることの2点が挙げられた。検討の結果全会一致で承認された。

11.7 将来計画委員会 (曾良)

曾良理事より、標記委員会が企画運営を行う「若手研究者育成プログラム」について説明があった。本年度からの新しい取り組みとして同プログラム内の懇親を深めることを目的とした「平成28年度若手研究者育成プログラム交流会 in HAKATA」が示された。

また、最優秀奨励賞受賞者に授与する副賞の財源についての説明があった。本年度より、大会事務局ではなく学会事務局で取扱い、学会として寄付を募るという体制に変わったことが説明された。

寄付金について、相応の自己資金が充てられることを条件とする企業があり、学会として予算の確保が必要であるため、寄付金の目標額や企画の継続について検討の必要があることが示唆された。

11.8 関連学会対応委員会 (加藤)

加藤理事より、2018年の第40回大会は日本神経化学会との合同大会として開催すること、日本神経化学会・日本神経精神薬理学会と今後も連携を深めていく方針が確認されたと報告された。

11.9 編集委員会 (篠崎)

篠崎理事より、学会誌の企画状況等について報告がなされた。第27巻4号までの特集が決定し、第28巻以降は第37回大会のシンポジウムから特集を予定している。また検討事項として、広告収入の減少と製作費見直しが示された。学会から製作費用として30万円程度増額する案が出され、また学会誌の電子版化ないしpdfデータの配信によるニュースレター化について他学会の運用例等を参考に検討すべきという意見が出た。審議の結果、製作費用の増額を承認するとともに、電子版・pdfデータ配信の調査を含めた学会誌の将来のあり方について、将来計画委員会と連携をとりながら検討を編集委員会で進めていくことが原案どおり承認された。

11.10 ティッシュ・リソース整備TF (加藤)

加藤理事より、委員会の活動内容について報告がなされた。2015年9月に従来のブレインバンク設立委員会をティッシュ・リソース整備委員会として発展改組したこと、日本神経病理学会と本学会の2学会合同でブレインバンク倫理指針が作成され、日本認知症学会、日本病理学会、日本神経精神薬理学会、日本神経科学学会、日本神経化学会日本統合失調症学会、日本うつ病学会、以上6学会から賛同を得られたことが報告された。当面は融合脳リソースの整備・普及のための研究「日本ブレインバンクネットの構築」の活動をすすめていることが報告された。また、若手の精神科医の人材不足・育成という課題が示され、学会としての働きかけ方について

継続し審議を行うこととなった。

11.11 うつ病研究推進WG (尾崎)

尾崎理事より、うつ病研究の推進を目的とした標記WGの使命は終わったという認識が示され、審議の結果、うつ病研究推進WGの解消が承認された。

12 WFSBP 報告 (理事長)

次回のWFSBP Congress (コペンハーゲン)に本学会より提案したシンポジウムの採択が検討されていることが報告された。

13 第37回年会報告 (中込)

中込理事より、日本神経精神薬理学会との合同開催となった第37回年会について、参加登録総数775名という予想以上の参加を記録し盛況のうちに会を終えることができたことが報告があった。

14 第38回年会準備状況報告 (渡辺)

渡辺大会長より、日本神経化学会との合同開催となる第38回年会の準備状況について報告があった。事前登録人数は昨年より少ないものの、23のシンポジウムをはじめとした日本神経化学会との垣根を越えた講演を予定している。

15 第39回年会準備状況報告 (久住)

久住理事より、日本神経精神薬理学会と合同開催となる第39回年会の準備状況について、シンポジウムは2学会から講演者を組み合わせ、基礎と臨床の枠にとられない企画を鋭意検討中であるという報告がなされた。決定している事項は以下の通り。

- ・会長：久住 一郎 (北海道大学大学院医学研究科精神医学分野)
- ・会期：2017年9月28日(木)～9月30日(土)
- ・会場：札幌コンベンションセンター
- ・学会テーマ：脳と心のフロンティア～「知」と「療」の連携

16 その他

- ・篠崎編集委員長より、従来行われなかった年会のシンポジストで非会員の方への学会誌執筆依頼がされることについて周知がなされた。
- ・加藤理事より、脳科学委員会の委員としての報告がなされた。来年度の研究費として意思決定と環境適応という項目で概算要求がなされ、その中で依存症・睡眠など本学会と関連のあるテーマも含まれており予算が通れば申請できるという説明がなされた。続いて加藤理事の所属する理化学研究所脳科学総合センターの現状について、来年で創設20周年を迎えるが来年度以降の存続が理研の理事会により決定されるため未定であるという報告がなされた。
- ・尾崎理事より脳科連の将来計画委員会の委員構成と来年度以降の改選が報告された。

以上